



喜屋武と綱引き



普段はとても静かな喜屋武の集落です。メインストリートであるメーミチを歩くのも喜屋武にすんでいる人くらいです。

そんな静寂を叩き割るように、夜のメーミチが騒然と熱くなる日があります。

旧暦6月25・26日の二夜に亘って、俗に「けんか綱」と称される「喜屋武の綱引き」が催されるからです。

例えば夫婦であっても生家によって「東・西」に分かれるため、その日ばかりはライバル同士になり、綱を引き合います。それも、喜屋武の住人、そのほとんどが総出となるため、ものすごい迫力と熱気につつまれます。綱引きがかわりに近づくと、服がボロボロになっている人は珍しくない、青年期のパワーが発揮するのが綱引きです。

あくまでも「喜屋武人の、喜屋武人による。喜屋武人のための綱引き」です。古くから沖縄の一集落に息づいた綱引きの、生の空気を味わえるため、隠れファンも多いとか…。



喜屋武の概要

喜屋武は、南風原町の南に位置して、南風原でもっとも大きく、みどり豊かな黄金森^{こがねもり}を、クサティ（腰当て）にした集落です。

むかしから染め織り業がさかんな集落のため、染め業特有の煙突や干し台が多く残る景観が、特徴的です。また、伝統芸能や行事なども、まだまだ元気いっぱい「喜屋武の綱引き」・「喜屋武の十五夜遊び」などが、喜屋武の人達にとっての楽しみとなっています。

黄金森を今なお、拝みの対象として大切にし、昔ながらの伝統工芸を継承し、伝統芸能を心から楽しんでいる、喜屋武の人達の「生まれシマ」への愛が、集落を元気にさせています。

喜屋武は素朴な、沖縄の一集落が生き続ける飾らない魅力があふれる集落なのです。

喜屋武データ

人口(男).....662人
(女).....649人
合計 1,311人
世帯数.....514世帯
面積.....71.4㌥

(令和2年1月末現在)

作成：南風原平和ガイドの会 2011年
発行・改訂：一般社団法人 南風原町観光協会 (2019年)
住所：沖縄県島尻郡南風原町字本部 158
電話：098-851-7273 FAX：098-851-7109

メール：chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp
HP：http://www.haebaru-kankou.jp



南風原町

喜屋武

(きやん)

「なーどーい」
「さーい」の音が響く



一般社団法人 南風原町観光協会

不思議な???



喜屋武のソーミン



喜屋武では新築や結婚などのお祝い事（グスージ）の席に、ちょっと変わった一品がです。赤飯、豆腐、てんぷらや三枚肉といったごちそうのなかに、当たり前のようにソーミンが同席しているのです。

喜屋武以外の人はこれを見ると、たいてい、不思議そうな顔をします。どうしても、「お祝いの席にソーミン?」と、思ってしまうのでしょうか。そういえば、見た目も少し変わっています。ソーミンチャンプルーには見えないし、ソーミン汁にしてはお汁がほんの少ししかありません。上につける具材も、豚肉と紅ショウガのみと、いたってシンプル。おそろおそろ食べてみると……これが、とっても美味。

おかし、「お祝いの席にソーミンなんか出しあって」と、「喜屋武ソーミン」を軽く見ていた他の集落の人が、それを一口食べてみるとあまりのおいしさに我を忘れ、ソーミンのお椀まで舐めまわした、という逸話があります。

食べられる場所や、見た目の不思議さもさることながら、不思議なおいしさが味わえる喜屋武のソーミンです。



喜屋武の芸能「十五夜遊び」



旧暦の8月15日に行われる、喜屋武の伝統芸能を披露する「十五夜遊び」が喜屋武集落センター（喜屋武公民館）で行われます。

かつて喜屋武には「大遊び」「遊びグァー」といった、^{むらあし}村遊び（祭り）がありました。広い原っぱに喜屋武に住む人々が集まって、飲めや歌えや、食えや踊れやととても賑やかに、芸能などを披露し合っていたといいます。それは、喜屋武に住む人々の繁栄を願うものであると同時に、大きな楽しみの中にもあったのです。

「大遊び」・「遊びグァー」は、戦前のころから徐々に行われなくなってしまいましたが、「十五夜遊び」だけは戦争の最中で一時中断を余儀なくされたものの、戦後いち早く復活し、脈々と受け継がれています。

「十五夜遊び」の主な演目としては南風原町で唯一現存する「^{あし}長者の大主」という祝儀舞踊、「^{うふしゅう}舞方棒」「獅子舞」といったものがあり、喜屋武の独特な芸風も多く、それぞれ、南風原町の無形民俗文化財となっています。



黄金森と沖縄戦



沖縄戦当時、黄金森は大規模な陸軍病院壕群があり、そこは、通称「ひめゆり学徒」が、沖縄戦に動員された場所でもあります。

喜屋武は、沖縄陸軍病院壕が構築された黄金森のとなりに位置する集落だったため、病院壕への食事をつくるための炊事場が設けられました。危険な砲爆撃の中、ひめゆり学徒たちは「飯上げ（食事の運搬）」という仕事を命じられ、炊事場と壕とを命がけで往復していたのです。

戦いがさらに激しくなり、日本軍は1945年5月の終わり頃、さらに南へと撤退する事になりました。その時数多くの負傷兵達が黄金森の病院壕に残されました。

置き去りにされてしまった負傷兵の中には、毒物が与えられ「自決の強要」が行われるなど、まさしく「地獄の丘」になりました。ここから奇跡的に生還し戦後を生きた人はほんのわずかな人数だといわれます。沖縄戦から70年以上経過し、沖縄戦体験者が少なくなっていくと同時に、「地獄の丘」だった当時の黄金森を知る人も少なくなっています。悲劇が刻み込まれた数多くの病院壕跡を持つ黄金森は、沖縄戦を学ぶ重要な戦跡でもあります。

1 名護の殿^{とうん}



喜屋武集落のはじまりという伝承を持つ「名護の殿」は、今でも大切な御願所です。
いまは広場が隣に造られ、おじい・おばあの笑顔に囲まれながら喜屋武を見守っています。

2 メーミチ



喜屋武の集落をはしるメインストリート。普段は静かで穏やかな道ですが、カシチー綱（綱引きの日）には、「東」「西」の熱い決戦の舞台となります。

3 かすり工房



南風原はかすり織りが盛んで、喜屋武にも数ヶ所のかすり織り工房があります。伝統を大切に守り続け、日々美しいかすり模様を織り成しています。

4 製糖工場跡



喜屋武の集落にはかつて、いくつかの製糖工場がありました。親族単位で運営されていた製糖工場も、機械化が進み一つの工場にまとめられました。

5 悲風の丘



黄金森は沖縄戦当時、壕が数多く掘られ沖縄陸軍病院として使用された丘です。ここでたくさんの負傷兵が命を落としました。その慰霊塔がひっそりと建っています。

6 沖縄陸軍病院南風原壕群20号



20号壕は黄金森に、数多く掘られた病院壕の中で当時の状態を残している唯一の壕です。現在は平和学習の場として、利用されています。

7 うまういーぐわあ跡



翔南小学校があるこの場所は、むかしは広い原っぱになっていて、村の祭りや行事が催されたり、青年たちが草競馬の練習などもしたりした場所です。

